

日本のスポーツにおける 「ジャパニーズ・マインド」とは

コミュニティ福祉学部助教 Katrin Jumiko LEITNER

はじめに

日本の武道は、海外ではとても人気があり、柔道に見られるような競技種目として試合での勝ち負けを目指す競技者もいれば、武道の精神やその礼儀等に魅了され、「人間形成の道」として武道に取り組む外国人も大勢いる。「人間形成の道」としての武道はもちろんのこと、現在競技として世界中に広く普及されているものであっても、日本の武道から発展している柔道競技やその他の武道種目に関しては、その礼儀や相手に対する気遣い等にあるように、他のスポーツ種目とは異なったものであるという認識がある。それゆえに、親が子どもに勧める種目としても高く評価されているといえる。

しかし、2013年に発覚した女子柔道日本代表選手への暴力問題をはじめ、学校の運動部活動における体罰問題や死亡事故などから分かるように、日本のスポーツ現場においては武道の精神に大きく起因すると思われる考え方や指導の仕方による問題が数多く存在していることも明らかである。なぜ同じ武道には、このようなギャップやズレが生じているのであろうか。また、日本人が考える武道と外国人が解釈する武道とは、どのように異なるのかを議論することが、2016年度から全学共通科目として開講されている授業の主なテーマである。

「Japanese Mind. Japanese sport and its characteristics seen from foreigners.」が科目の正式名称であり、全学共通科目の「多彩な学びー心身への着目」という区分に位置付けられている。科目名からも分かるように、授業は全て英語のみで実施されているため、履修者にはTOEIC550点相当以上の英語力を有することが望ましいとされている。したがって、半年から一年間を立教大学で過ごす外国人学生もこの科目を履修しており、この2年間では毎年約20名程度のさまざまな国から来日した外国人学生が授業に参加していた。それに加え、さまざまな学部日本人学生（1～4年次生）もこの授業を履修しており、合計約100名以上の規模で講義を行ってきた。

授業の主な内容は、科目名にある日本のスポーツにおける「ジャパニーズ・マインド」とはどのようなものなのか、さらに、この日本的な考え方とそれによる日本におけるスポーツの特徴、および日本人アスリートの立ち居振る舞いは外国人にどのように見られているかを考えるものである。日本人学生の多くは、「日本と日本人をより理解するためにも、外国人にどのように見られているかを学び、自分のことをより正確に説明するための参考にしたい」という理由で本科目の履修を希望している。一方、外国人学生

は、「日本のスポーツ自体はもちろんのこと、スポーツを通して、より広く日本の社会や文化についての理解を深めたい」が履修に至っている主な動機となっている。

授業の主な内容と学習方法

授業の導入として最初に、伝統的な武道及び学校体育に影響されてきた、日本におけるスポーツの発展に関する歴史的背景を概略的に説明している。それから、その歴史によって生成した日本のスポーツにおける「ジャパニーズ・マインド」を考えるのに必要不可欠と思われるいくつかのキーワードを基に、主に学校の運動部活動を事例に日本のスポーツについて講義を行っている。

その主なキーワードとは、武道における「道」に基づく考え方、「根性及び根性論」、「頑張り」、「先輩後輩」、「集団意識」、「指導及び体罰」、「掛け声」というものである。これらの概念には、特に外国人学生にとって、口頭の説明だけではなかなかイメージできない部分もあるため、「高校野球」や「学校の運動部活動」についての映像資料を授業の教材として取り入れ、日本のスポーツをより詳細に理解するための学習方法を工夫している。このように、日本のスポーツについての理解を深めた後に、それぞれテーマごとの日本人的特徴を外国人はどのように見て考えているのかを述べて、履修者に考えさせる課題を提供していく方法で授業を進めている。

以上のように、この科目は、映像等の教材を取り入れた講義が基本的な形式となっているが、それに加えて日本人学生と外国人学生の意見交換や情報共有を促すグループディスカッションやグループで考え準備する最終プレゼンも行い、さらに、個人で作成する小レポートも評価の対象にしている。さまざまな国から来日している特別外国人学生に加え、日本人にも海外経験が豊富な学生とそうでない学生がいる授業において、多様なバックグラウンドを持った学生の交流を促し、より広い視野を持った学習を可能にすることがグループワークの主な狙いである。

以上のような形式で行われる、特に海外の視点から日本のスポーツにおける「ジャパニーズ・マインド」を考えていくテーマは以下のようになっている。

1. Sport in Japan: Budo, Martial Arts vs. Sports?!
2. The “Dō” - Concept: “The Gentle Way” or JUDO?!
3. “Konjō/Konjō-ron” - Is there really a way, where there is just will?
4. “Gambari” - Doing one’s best
5. “Sempai/Kōhai” - Seniority rules and hierarchy
6. “Shūdan ishiki” - Japanese group consciousness
7. “Shidō & Taibatsu” - Japanese-style coaching and corporal punishment
8. “Kakegoe” - Shout of encouragement
9. Trying to understand contemporary Japanese sport and its characteristics

多くの日本人には、これらのキーワードはスポーツと密接に結びつくものとして当たり前のように受け止められる。しかし、外国人にとっては、文化的な背景等による違いから違和感を抱く行動が多いようである。実際に、授業の中では、外国人学生と日本人学生のそれぞれから、どのような意見や感想があったかを以下に紹介したい。

まず外国人学生からは、「常に全力を尽くして頑張ること」、「お互いに応援し合って、目標に向けて協力しチームワークを重視した姿勢や取り組み方」や「常に礼儀正しく他人と接する姿勢」等を高く評価しているのに対して、「先輩後輩の人間関係によって起こり得る体罰やいじめ」、「学業を疎かにするまで、長時間の練習のみに励む学生生活」や「けが等も無視して厳しい練習をさせること」等については、同意できず絶対にあってはならないこととして非難する意見がほとんどであった。一方、日本人学生には、大きく二つの意見に分かれており、上記の外国人学生と同じ意見を持っているグループと、体罰やいじめについて肯定はしないものの、根性論や先輩後輩の人間関係において多少理不尽なことでもそれが日本のスポーツ文化であると認識している学生も少なからずいた。この二つのグループに分かれた理由としては、海外経験の有無が挙げられ、海外経験が豊富な日本人学生のほうは、理不尽な行動等に対して強く反対する傾向が見られた。

全体的には、日本におけるスポーツとその「ジャパニーズ・マインド」の今後については、「礼儀」、「チームワーク」、「努力」等、日本社会にいい影響を与えらるものを残しつつも、「体罰やいじめ」や「理不尽な練習方法」等は、特に現在の社会には不適切であり改善していくべきであるというのが、グループによる最終プレゼンにおいて2017年度の授業をまとめる意見となった。

以上が、日本のスポーツにおける「ジャパニーズ・マインド」を特に海外からの視点によって、日本人学生と外国人学生が自主的に参加する学習方法を取り入れた形で進めてきた、全学共通科目「Japanese Mind. Japanese sport and its characteristics seen from foreigners.」の概要である。上記した履修者からの意見や感想にも見られるように、さまざまな内容に関して議論し多様な考えを共有できた点は、本授業の成果となったのではないと思われる。しかしながら、特に授業の展開や履修者個々の学習方法といった、教室のマネジメントについては課題も多く残っており、今後改善していかなければならないと考える。

今後の授業の改善点

第一に、日本人と外国人学生が混在する授業形態における、授業内容に関する説明方法のさらなる工夫である。2016年度と2017年度の2年間この科目を担当してきた経験から、履修者に対する内容説明の難しさを感じた。具体的には、日本人学生の多くがある程度理解していると思われる「日本の学校運動部活動やその他のスポーツ現場とその特徴等」について、外国人学生が全くと言っていい程知らないものでもあるため、そ

の説明に多くの時間を要してしまった。その分、日本人学生が主に興味を持っているであろう「海外からみた日本のスポーツ」についての説明が割的に短くなってしまったと反省している。外国人学生に対する工夫としては、「高校野球」や「学校の運動部活動」についての映像資料を取り入れてきたが、今後は日本人学生に対しても、海外からの視点に関する内容をよりイメージしやすくするための映像資料を利用する等の工夫が必要になると考える。さらに、以上の二つの視点について、授業の持ち時間をそれぞれのテーマにバランスよく割り当てた授業展開を新たに考えていきたい。

第二に、100名程度の履修者がいる授業において、アクティブラーニングを取り入れた学習方法をどのように実践できるか検討したい。上述したように、本科目は、講義として位置付けられているが、教員からの一方的な講義形式だけでなく、履修者の積極的な参加が求められるグループディスカッションやグループ発表も含んでいる。日本人学生に対して外国人学生数が少なく、グループ分けにおけるアンバランスは仕方のないことだと考えるが、最終プレゼンに十分な時間が確保できず、全グループが発表できないことや発表時間が短いこと等の問題が見られた。グループワークのために、できる限り多くの履修者と交流ができるように、ティーチングアシスタントによるグループ分けが今年度の充実した授業の要因の一つだと思われるが、今後大人数の学生が履修する授業におけるアクティブラーニングの学習方法について、積極的に検討していきたいと考えている。

おわりに

本科目の担当を通じて、私も日本のスポーツとその特殊な考え方等について履修者の学生とともに多くのことを学ぶことができた。大学において提供されている授業には、多分野にわたる内容を扱うものと、さまざまな方法によって展開されているものがあるが、異なるバックグラウンドを持った多様な学生が自由に意見交換や情報共有をしながら一緒に学ぶことができる科目はまだまだ少ないように感じる。

しかし、ここで紹介した科目においては、スポーツという狭い範囲の対象ではあったが、日本人学生と外国人学生の活発な交流によって、日本の社会や文化だけでなく、海外のさまざまな国についても、多様な考えを学ぶことができた実感している。今後、このような学びの機会がさらに増えることを願うと共に、東京オリンピック・パラリンピックを前に日本のスポーツについて考えるよい機会になるようにこれからも取り組んでいきたい。

Syllabus

Japanese Mind

授業の目標

Course Objectives

This course tries to examine characteristics of sport in Japan seen from a foreign perspective. Students will deepen the understanding of the Japanese mind and thinking using the example of sport.

授業の内容

Course Contents

Through lectures, discussions, presentations and paper reports, students will learn about characteristic Japanese behavior, attitude and thinking in different settings of sport and how they are seen from the viewpoint of foreigners. On the basis of key terms and with the main example of Judo, this lecture tries to offer insights into the character of Japanese sport and their athletes, and how they are perceived by non-Japanese.

授業計画

Course Schedule

1. Guidance & Introduction: Japan and Japanese seen from foreigners
2. Sport in Japan: Budo, Martial Arts vs. Sports?!
3. The “Do” – Concept: “The Gentle Way” or JUDO?!
4. Presentations
5. “Konjo/Konjo-ron” – Is there really a way, where there is just will?
6. “Gambari” – Doing one’s best
7. Presentations
8. “Sempai/Kohai” – Seniority rules and hierarchy
9. “Shudan ishiki” – Japanese group consciousness
10. Presentations
11. “Shido & Taibatsu” – Japanese-style coaching and corporal punishment
12. “Kakegoe” – Shout of encouragement
13. Presentations
14. Trying to understand contemporary Japanese sport and their characteristics